

## 彩都区画整理事業

# URが事業の収束に向けて 保留地をばら売り、投げ売り

URは2014年1月末の事業計画変更（第6回）で、「今回の土地利用計画と資金計画の変更により、本事業の収束をはかる」としています。事業収束とは早期に保留地の処分を完了することと思われませんが、そのためにURは保留地を分割するとともに、従来の処分価格を大幅に下回る価格で、民間ディベロッパーに処分していることが明らかになりました。

2013年度末の彩都土地区画整理事業の財源を生み出す保留地と事業の採算性向上のための仮換地総面積は97.6㊦で、処分地（借地権設定面積を含む）は70.7㊦で処分率は72%です。URは早期に処分するためにスーパーブロック保留地7カ所21.3㊦を20区画に細分化するとともに、保留地の一部2.9㊦（ピンク色）を阪急不動産、大阪ガス、阪神電鉄など住宅開発共同企業体に㎡あたり21,000円と常識外れの価格で処分しています。

